

歴史

・食

・自然

が織りなす

あじわいの郷へ

市は、観光施策を総合的かつ効果的に推進するため、観光振興の具体的な方向性を示し、観光施策の指針となる市観光基本計画（以下、計画）を策定しました。特色ある市内の観光資源「歴史・食・自然」を生かし、団体や企業、市民一丸で「あじわいの郷」づくりを目指します。

■問い合わせ〓本庁商業観光課観光物産係（内線273）

計画策定の趣旨

この計画は、市総合計画基本構想に掲げる目指すべき都市像の実現に向け、必要となる施策や事業を部門別に体系

化した市総合計画後期基本計画を上位計画としています。本市の観光振興の方向性とその施策を明らかにし、より具体的な実施事業の計画を定めているものです。なお、平成

20年度から24年度までを期間としていた「市観光基本構想」を見直した上で、計画に包括する形としています。

実施に当たっては、行政、観光関係団体、事業者、市民の協働のもとに進めていきます。

計画の基本方針

計画は、副題を「歴史・食・自然 あじわいの郷 奥州市」として基本方針を定めました。

市の恵まれた立地や観光資源を生かし、世界文化遺産「平泉」エリアを中心とした

広域的な連携により、観光客誘致を推進することとしています。

計画では、新たな観光資源の活用や既存施設の改善を計画的に実施するとともに、効果的な観光情報の発信や観光PR活動を展開します。

このほか、既存ブランドの普及拡大や新たな地域ブランド、特産品の開発を進め、市内の観光関係団体や市民との連携体制を構築します。また、ホスピタリティーの向上を図り、協働による観光物産の振興を推進します。

なお、この計画は25年度から33年度までの9年間を計画期間としており、前半の4年間を前期計画、後半の5年間を後期計画としています。

観光を取り巻く課題

甚大な被害をもたらした23年の東日本大震災。風評被害などもあり、その影響による観光客の減少は大きなものでした。現在、観光客は徐々に増加傾向にあるものの、市における観光を取り巻く状況はいまだに厳しいものとなって

います。

そのような状況を踏まえつつ、計画策定に当たり、現状の課題を明確にしました。その課題として、次の4つの点が挙げられます。

広域観光や着地型観光の推進

世界文化遺産である平泉の中尊寺や毛越寺。現状では、平泉を訪れる観光客を市内に呼び込むことが十分にできていません。観光客が、市内のみで観光施設を周遊する割合は低く、他市町村の観光地への通過型が多くなっています。また、市内の宿泊施設を利用する割合が少ない傾向にあり、二次交通も不十分な状況です。

特産品の普及拡大と郷土食を生かした観光客誘致

市町村合併以降、市を代表し、誰もが推奨するお土産品の位置付けが明確化されていない状況にあります。

現在、市は農商工連携や6次産業振興の推進に力を入れているものの、その成果が観光客誘致につながっていない状況です。今後はさらに、郷土食を新名物として売り出すことなども、観光客誘致に向けて必要となります。

新たな観光資源の活用と案内看板の整備・改善

市内には、老朽化している既存の観光施設も多く、早期に整備、改善を進める必要が

あります。また、新たな観光資源については、その活用と他の観光資源との連携を強化しなければなりません。

観光客誘致に向けた案内看板の設置も不十分であり、今後は計画的な整備や改善が必要です。

連携体制の整備と情報発信機能の充実

観光関係団体や市民との連携、電子媒体を活用した情報発信が不十分です。また、効果的に情報発信するためには、その体制を構築することが必要です。

また、来日外国人に対する受け入れ態勢や、情報発信機能の充実も求められます。

※二次交通 … 複数の交通機関を利用する場合の2種類目の交通機関のこと